

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 29 日現在

機関番号：34531

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23792628

研究課題名(和文)透析患者の「かゆみ」に対する看護診断関連因子の特定 中規模前向き縦断調査

研究課題名(英文)To identify related factors of nursing diagnosis of dialysis patients for "itch"  
- Medium-scale prospective cohort study-

研究代表者

神谷 千鶴 (KAMIYA, Chizuru)

関西看護医療大学・看護学部・准教授

研究者番号：80361236

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円、(間接経費) 960,000円

研究成果の概要(和文)：透析患者において「かゆみ」は、治療を受ける上での苦痛の一つであり、生活の質を低下させると言われている。近年の研究で透析患者の「かゆみ」に関する身体的なメカニズムが明らかになり、効果的な薬も処方されるようになってきた。しかしながら身体的要因以外の環境要因や心理的要因などは明らかにされておらず、看護師の介入によって軽減できる「かゆみ」の要因を探求したいと考えた。北海道から中国地方までの全国9か所の透析施設で1年間にわたり「かゆみ」の調査を行った(現在進行中の施設もあり)。透析条件などの他に、季節や患者の心理状態、看護師の関わりなどが影響していることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：For dialysis patients, "itching" is one of distress on to be treated, it is intended to reduce the quality of life. According to recent studies, the physical mechanisms of the dialysis patient's "itch" has become evident, effective drugs were to be administered. However, such as psychological factors and environmental factors has not been clarified, I wanted to clarify the factors can be reduced by the intervention of nurses "itch". Conducted a survey of the "itch" for one year dialysis facilities of nine nationwide (There is also a facility that continues to study today). As a result, in addition to the conditions, such as dialysis, psychological condition of the patient and the seasons, such as the involvement of nurses is influenced has been suggested.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：透析患者 かゆみ 看護診断 前向き調査

### 1. 研究開始当初の背景

慢性腎不全患者のかゆみは、透析治療を受けるようになってからも続く患者を最も苦しめる不快感(身体性感覚)のひとつであり、2,474名の維持透析患者の実態調査でも、75%の患者が毎日「かゆみ」を経験しており、その「かゆみ」が患者のQOLを低下させていることが報告されている(大森,2001)。

近年、脳機能画像研究によって「かゆみ」の抑制メカニズムが痛みと同様に脳内に存在することが示唆されるまでに探究が進み、「かゆみ」の発生機序も徐々に明確になってきている。しかしながら、透析患者の「かゆみ」については、その他にも多くの要因が影響していると考えられおり、いまだ、明確な治療方法が開発されていない。このような中で、複数の研究者や臨床医らは、かゆみの研究を基にかゆみのメカニズムとその治療との関係を示唆している(段野,2004;高森ら,2004)。

透析患者に関わる看護師も、透析患者の「かゆみ」は重要な問題であると捉えられ、日常生活の指導を始め、治療の指示である保湿剤の塗布、皮膚の保全、保湿等を援助してきた。具体的には、薬事法に触れない方法での弱酸性水(深尾,1999)やヨモギローション(金森,2004)、人工炭酸浴剤(佐々木,2005)などの開発と検証研究が実施され、その効果が示唆されている。また、患者の外剤の塗布の継続が認知行動療法(セルフモニタリング法)を用いることで、かゆみの軽減につながった例などが報告されている(柿本,2010)。しかしながら、こうした研究の成果は、対象数が少ない症例報告であったり、対象が一貫していないことで一般化や追試までに至っていない。そのため、透析患者の「かゆみ」の看護援助として有効であるかどうかは見出せていない実情がある。

有効な看護援助を行うためには、看護上の問題を明確化し、評価することが重要である。そのため、看護界では、看護診断(看護概念)を開発し、看護上の問題の概念化と、概念抽出のための指針(診断指標、関連因子、危険因子)を明確にしてきた(NANDA-I,2009)。しかし、「かゆみ(痒痒感)」については、かゆみの上位概念である「安楽の障害」の範囲は示唆されているが、その下位概念である「かゆみ」の概念の抽出には至っていない。また、本研究が昨年行った研究では、透析患者のかゆみを看護上の問題と捉えているにも関わらず、看護診断の概念が明確になっていないために、かゆみに対しては対症療法にとどまっているという実情も明らかになっている(神谷,2010)。

そこで、今回の研究では、透析患者の「かゆみ」に対する看護の専門性をより明確にするための看護概念の抽出として、その関連因子となる「外的因子」と「内的因子」を明らかにすることを目的とする。このかゆみの看護概念の関連因子が明確になれば、看護師

は関連因子を取り除くための有効な援助方法を見出すことができると考えられる。

これまで、透析患者のかゆみに関連する因子は多くの研究により解明されつつあるが、多くの研究が医学的因子の解明であり、また横断的研究であるため、その因子が長期に及ぼす影響については明らかになっていない。横断的な調査では環境因子や精神的影響を及ぼすライフイベントなどの外的因子との関連を明確にすることはできないと考えられる。そのため、本研究では、1年以上をかけて、透析患者のかゆみについての追跡調査(縦断調査)を行い、先行研究で示唆されている「かゆみ」の概念と関連因子(外的、内的)を明らかにしたいと考える。

本研究は、これまで医学的に明らかになったかゆみの因子とそれに影響するとされている外的因子、内的因子を看護の視点で明らかにすることが特色である。また、前向き縦断研究をすることで、これまで明らかにされなかった季節、透析期間、生活環境やライフイベントなどとかゆみの関連を明確に捉えることができると考える。そうすることで、有効な看護援助を開発することができ、薬剤だけでは対応できないようなかゆみでも、看護援助により、軽減できるようになると考える。これまで、かゆみは仕方がないと医療側が考えていることが多かったが、「かゆみ」は患者にとって安楽を障害されるものであり、あらゆる手段を駆使しても取り除かなければならない看護上の問題であると考えられる。

本研究により、看護診断概念「かゆみ」が明確となり、その診断指標(つまりかゆみの評価指標)と関連因子が明確になる。それは、医学的データのみではなく看護に必要な外的因子(主に環境)や内的因子(透析治療の管理状況や精神衛生)が明確になると予想される。この結果は、すぐに看護援助の開発へとつながるものであり、透析患者の安楽の障害となっている「かゆみ」の軽減へ直結するものであるため、臨床的意義が大きいと考えられる。

### 2. 研究の目的

外来血液透析患者の「かゆみ」に対する看護診断関連因子を明らかにすることを目的とする。

1. 全国の透析患者100名を対象に「かゆみ」に影響する因子を1年間にわたり追跡調査を行う。

2. 調査から明らかになった「かゆみ」看護診断概念と関連因子について、妥当性検証を行い、臨床で活用できる看護診断と診断指標、関連因子を明確にする。

### 3. 研究の方法

(1)透析患者のかゆみに関する追跡調査の実施

全国の外来透析施設10施設で、川島(2002)の「痒痒の程度の判定基準」で中等度以上の

かゆみを持つ患者 100 名について、追跡調査を行う。  
 調査内容：かゆみの程度，透析治療状況，使用している薬剤，皮膚の状態，環境因子，スキンケア，精神状況など  
 (2)調査結果より明らかになった，看護診断概念と関連因子の診断内容妥当性検証 (diagnosis content validity:DCV) の実施。  
 透析療養指導看護師 (DLN) 200 名に 3 ラウンドの質問紙調査

透析患者のかゆみに関する追跡調査の準備  
 調査用フォーマットの作成 (電子ファイル)  
 調査内容の検討 (先行文献より「かゆみ」に関連があるとされる項目)  
 かゆみの程度，状況 (かゆみ評価スケール，VAS による評価，かゆみのでる時間帯)  
 透析治療状況 (透析膜，時間，透析効率，血中 Ca, P, BUN, Cr, 2 MG, Alb など)  
 使用している薬剤 (内服薬，外用薬，貼付薬など)  
 皮膚の状態 (角層水分量，皮膚表面脂質量，皮膚表面 pH，掻き傷の有無，末梢血流量)  
 測定のための精密機械が必要  
 環境因子 (在宅の温度，湿度，透析室の温度，湿度)  
 スキンケア (入浴状況，入浴剤，洗体ブラシの種類，保湿ローションの使用状況)  
 精神状況 (ストレス尺度，抑うつ尺度，患者の言動)

調査依頼，研究計画の説明会の実施 10 施設で 100 名程度の患者を予定  
 研究協力者：日本腎不全看護学会に所属する透析看護経験が 5 年以上の看護師  
 : 全国 10 箇所の外来透析施設  
 北海道  
 福島県  
 東京都  
 愛知県  
 愛知県  
 大阪府  
 兵庫県  
 岡山県  
 徳島県  
 福岡県

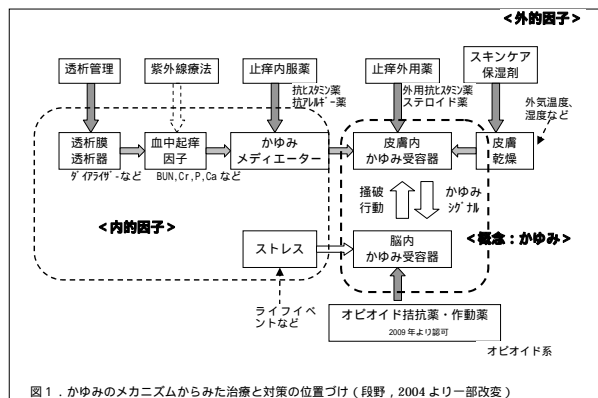
調査の実施，施設への訪問，データ収集の確認  
 (全国 10 箇所程度の訪問となるため，旅費が必要である。研究協力看護師および協力患者への謝金が必要である。皮膚データの測定器は臨床で持ち合わせていないので，こちらで貸与する形をとりたい。年間を通じて何度も測定できるように，安価で簡便に測定できる機器を各施設 1 台ずつ貸与する。)

(3)透析患者のかゆみに関する追跡調査の実施とデータのまとめ

調査研究の実施 (全国 10 施設)  
 データ分析方法  
 各データと「かゆみ」の評価 (VAS スケール) との関連を分析する。  
 因果関係の考えられるものは多重ロジスティック回帰分析，因子間の分析には，多変量解析を用いて，共分散構造分析を行う。統計ソフトは SPSS, Amos を使用する。  
 データのまとめ  
 看護概念 <かゆみ> と，得られたデータとの関連性について，関連因子を内的因子，外的因子に分ける。まとめにおいては，スーパーバイザーよりアドバイスを貰う。  
 研究成果の発表  
 NNN (NANDA, NIC, NOC international conference 2012, USA) にて発表

(4)臨床妥当性検証の実施 (fehring による妥当性検証モデルを用いる)  
 調査用紙の作成  
 3 ラウンドの質問紙調査の実施  
 対象：日本腎不全看護学会に所属する看護師で，透析療養指導看護師の認定を受けている看護師 200 名  
 セミナー参加者に，参加を依頼する。学会理事長に許可を得る。  
 方法：質問紙調査，配布はセミナー時に行い，後日郵送で返送してもらう。  
 同じ対象者に，3 ラウンドの調査を行い，1 ラウンドごとにデルファイ法にて結果を集計する。0.8 以上を特徴ある関連因子，0.6 ~ 0.8 までを関連因子として取り扱う。

4. 研究成果  
 「かゆみ」の調査のため，先行研究で行った看護診断の痒みに関する因子の再検討を行った。現時点でもっとも近い看護診断概念である「皮膚統合性障害」「皮膚統合性障害リスク状態」の看護診断の診断指標，関連因子について，透析患者に特徴的なものに「かゆみ」があった。文献レビューの結果，身体的要因の概念を明らかにすることができた。明らかになっていない，環境要因や心理的要因を基に，再度，データ収集のためのデータフォーマットの検討を行った。



研究計画時に想定していた項目に加え、その地域の天候、気温、湿度、患者の言動なども考慮できるようなフォーマットを作成した。透析療養指導看護師の認定資格をもつ看護師の施設で、プレ調査を行った。プレ調査の結果、皮膚の油分、弾力性、pHの測定には時間がかかり、患者に負担がかかること、診療業務にも支障がでることから、月1回の測定で経過を見ていくことにした。また臨床の看護師から、透析条件の細目の追加があり、追加した。

プレ調査、調査機器の取り扱いの説明を詳細に行うことで、研究協力者の技術を統一することができた。

本調査は2012年12月に1施設が開始し、その後、2013年1月に1施設、2013年4月から2施設、2013年12月から1施設、2013年1月から2施設、3月から1施設、4月から1施設が開始となっているため、縦断研究の調査は終了していない。もう1施設を調査依頼を行い、全国10か所で100名程度の調査の継続をしていきたいと考える。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0件)

〔学会発表〕(計 1件)

Kamiya, Chizuru; Honda, Ikumi; Kasaoka, Kazuko; Egawa, Takako (2013): Cues for Risk for Impaired Skin Integrity of Nursing Diagnosis (NANDA-I) in Dialysis Therapy in Japan: a Delphi-study. 3rd World Academy of Nursing Science, October 16-18, Seoul, Korea.

〔図書〕(計 0件)

ホームページ等

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

神谷 千鶴 (KAMIYA, Chizuru)

関西看護医療大学 看護学部・准教授

研究者番号: 80361236